

# 営農技術情報

一畑作（春まき小麦）6月号一

平成30年 6月 2日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

## ～今後の栽培管理について～

### 1 生育経過

生育は平年並みで、現在、幼穂形成期を迎えています。

＜本年および平年の生育状況＞

	出芽期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃
<b>本年</b>	<b>5/8</b>	<b>5/30</b>				
平年	5/9	5/30	6/14	6/20	6/23	6/26
遅速	早1日	±0日				

### 2 追肥について

- ・追肥を行なう場合、止葉期（6月中旬）以降は「遅れ穂」の発生が多くなるおそれがありますので、6月上旬までに実施するようにしましょう。
- ・出穂～開花期の葉色が薄い場合やタンパク含有率が低いほ場では、開花期以降に、1週間間隔で2%尿素溶液の葉面散布を2～3回行なって下さい。

### 3 倒伏軽減について

茎数の多いほ場では、生育時期に応じて倒伏軽減剤の使用をご検討下さい。

【資材例】資材例（登録内容はH30.5.31現在）

資材名	使用時期	回数	10a 使用量	10a 散布水量
サイコセルPRO	6葉期前後(草丈 30～40cm)	1回	150ml	100 リットル
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始期	1回	150ml	100 リットル
エスレル10	止葉期	1回	200～333ml	100 リットル
	出穂始期		100～200ml	

### 4 病虫害防除について

#### (1) ムギキモグリバエ

遅まきになるほど、加害期間が長くなります。4月は種のは場では、4.5～6葉期、5月上旬は種では3～6葉期にかけて防除を実施しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容はH30.5.31現在）

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫7日前	1回以内
エルサン乳剤	1,000倍	収穫7日前	4回以内

#### (2) 赤かび病

- ・最も感染しやすい時期は、開花期前後です。
- ・感染前の穂に薬剤を十分付着させることが重要です。

※6月中旬に、開花始に関するFAX情報を発信します。